

令和の働き方を考える

平成から令和の時代に移りました。元号が変わると新たな気持ちになるのは私だけではないと思います。令和がどのような時代になっていくのか楽しみでもあります。令和の時代に予測される働き方に関して考えてみます。今は人生100年の時代と言われています。高齢者で健康な方も多く、定年が65歳になり、意欲がある方は70歳まで働くことも出来るようになりました。若い夫婦は共働きが増えて、家事、子育て、親の介護など夫と分担して行う時代に変化してきました。少子高齢化が一段と進み、年金や社会環境などの変化で令和の時代が大きな働き方の転換期になると考えられます。

○令和の時代に予測される働き方の変化

- ・外国人と一緒に働くことが多くなる。
- ・社会貢献事業に携わる方が増える。
- ・スモールビジネスを起業する方が増える。
- ・2つの職業を持つ方が増える。
- ・在宅での仕事が増える。
- ・女性がより社会に進出する。
- ・特異な職能を持つ人が注目される。
- ・働く年数（期間）が長くなる。

ことば療法（ことば音楽療法含む）は特異な職能の部類に入ります。「職」でプロフェッションの倫理的側面を表わし「能」でプロフェッションの技術的側面を表します。現在、ことば療法士に認定されている方は40～60歳の女性の方が多いです。今までの人生経験、体験、人生観をお互いに共有しながら、障害児のことばを促す「プロフェッショナル」を目指してはいかがでしょうか。

好きなことを仕事にしながら社会に貢献していく！一生涯仕事をして、健康で豊かな人生を過ごし、実りある人生を築き上げていく・・・ことば療法のプロフェッショナルになることを人生の目標にするのもいいんじゃないでしょうか！それには、当然責任、苦勞、努力が伴って来ますが、『ことば療法士』が予測される令和の働き方に当てはまってきたような気がします。

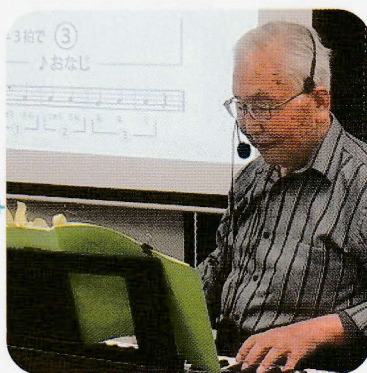
事務局（Y・T）

INDEX

- 令和の働き方を考える／事務局・・・1ページ
- 第7回 日本ことば療法学会～名古屋～／堀田喜久男
- ことば療法士ポイントセミナー予定・・・2ページ
- いのちと向き合うとき／横浜支部長 高橋亮太郎・・・3ページ
- 感情的にキレル子どもとことば音楽療法／桂川 一 ● FacebookとTwitter開設・・・4ページ
- 言語理解がある高校生への発声トレーニング／小坂 満賀・・・5ページ
- ことば音楽療法を放課後等デイサービスで取り入れる意義とは／浅野雄太・・・6ページ
- <コラム15> 宍戸理恵 ● 書籍紹介『知育音楽あそびうた』・・・7ページ
- 認定校・認定教室・・・8ページ

第7回 日本ことば療法学会～名古屋～

日本ことば療法学会 委員長
堀田 喜久男



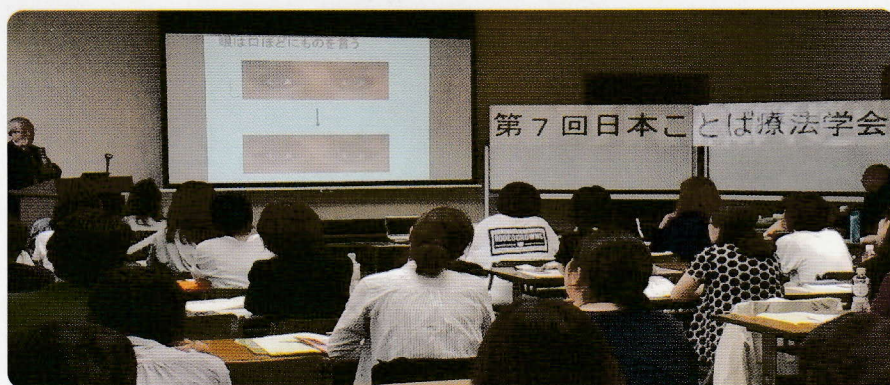
第7回日本ことば療法学会が6月29・30日に名古屋市日本特殊陶業市民会館にて2日間で100名程の参加を得て開催されました。



第1日は講習会で『はなしことばの育て方』（後半）と題して徳田和恵先生講演がありました。続いて保育・療育子育て支援に使える『知育音楽あそび歌』と題して穴戸理恵先生の講演がありました。続いて『発語音楽療法』（後半）と題して堀田喜久男先生の講演がありました。

第2日は基調講演が大阪教育大学名誉教授の竹田契一先生によりありました。続いてセミナーが穴戸理恵先生により「風間千寿子先生」の報告がありました。午後は『発語を促し、ことばを育てる』をテーマにシンポジウムが堀田喜久男先生、後藤浩子先生、徳田和恵先生、長坂利永子先生より行われました。

研究発表は「千葉ことば音楽教室の実践研究～1年目から2年目へ～」と題して小林紳一先生の発表がありました。続いて「導入期のことば音楽療法」と題して小笠原清恵先生の発表がありました。続いて「子どもの成長を見守って」と題して長坂利永子先生の発表があり、第7回日本ことば療法学会は終了しました。



ことば療法士のポイントセミナー（7月～12月）予定

- | | |
|---------------------------|------------|
| ✿ 和歌山:2019年9月22日(日曜日) | ✿ 担当:水尻真美香 |
| ✿ 兵庫県:2019年10月下旬(予定) | ✿ 担当:上野奈央 |
| ✿ 埼玉県:2019年10月22日(火曜日・祭日) | ✿ 担当:小林紳一 |
| ✿ 東大阪:2019年11月3日(日曜日) | ✿ 担当:深谷靖子 |
| ✿ 大阪府:2019年11月17日(日曜日) | ✿ 担当:土田靖子 |

—いのちと向き合うとき—

横浜支部長 高橋 亮太郎

令和になりました。平成生まれの皆さまは人生初の改元、どんな感じでしょうか。平成元年と令和になった現在を比べてみると、明らかに身の回りの情報量が爆発的に増えました。ネットとSNSが浸透したことが原因でしょう。いまや誰もがスマホという情報発信受信メディアを持ち歩きますが、ポケベルすら珍しかった平成初頭はバブルといってもまだのんびりできました。

特に人の生死に関わるものはネット上を高速で飛び交います。最近では無謀運転による交通事故、川崎市のような殺傷事件、歌手・俳優など有名人の死、自然災害…等々。それらは否応なしにスマホに送られ、犯人像・被害者の無念・ご家族への同情、などへの意見や情報に誰もが心理的に揺さぶられます。そしてその失われた生命と人生に思いを寄せることになります。

それでもここまではいわゆる「3人称の死」として見られます。先日、NHKでは安楽死を取り上げ、なんと実名入りで別れのご挨拶から点滴投与～死亡、検死までをノーカットで放送しました。そこでは「1人称の死」すなわち自分の生命と向き合いつつ死を選択した50代女性の壮烈な覚悟が衝撃的でしたが、私たちが今すぐ自分の死に直面する可能性は高くありません。難しいのは「2人称の死」と呼ばれる身近な家族の死で、この番組では実姉がその立場でした。私も、かつて父の白くなった肺の画像を見せられ、痰吸引での苦悶を思い出して延命を辞退した経験があります。ある医療コーディネーターが講演で言っていました、末期の家族に対する措置にはマニュアルも正解も無いとされていて、胃ろうにしても延命拒否でも後悔する時はある、と承知の上でその場その場で最善を尽くすしかないのです。

人間でもペットでもそのロスに際しては、古今東西を問わず死の受容が大変なのですが、初期のユーミンに愛犬の死の歌があります。「人は 無くしたものを 胸に 美しく刻めるから」「細いむくろを 風が震わす」なんてフレーズを聴いた時は、その達観した死との距離感に絶句して「この人は仙人か？」と思いました。また元国立がんセンター所長の垣添先生は、がんの奥様を看取ったあと数ヶ月は恥も外聞も無く号泣しまくったそうです。でも実は泣くだけ泣いたほうがグリーフケアとしては良いそうで、これもまた正解のない世界です。最近では内田裕也の逝きかたが、母の後ろ姿を「ママ待ってー」と追う幼い男児のようで、ある種の可愛らしさを感じました。

一方、いま日本では年間九十数万人が生まれています。令和になってから約2ヶ月でもう15万人以上の令和ベビーが生まれたことになります。既に1千兆円以上の国債という負の遺産を残しておいて申し訳ないのですが、彼らが今の平成キッズとともに楽しい人生を歩んでもらえるようにするのが昭和アダルトの役目でもあります。彼らに残せるものは多くはありませんが、生きざまは見せられます。カッコ悪いものでも反面教師になるでしょう（笑）。年齢とともに3人称から2人称の死に向き合う機会が増えて、ゆくゆくは1人称…字は違いますが逝きざまを見せるのも大事な仕事になる日が来るでしょう。

私たちは幸運にもことば音楽療法を介して子供たちと触れ合うチャンスを得ました。溢れるネット情報にことさら踊らされることなく楽しいセッションを積み重ね、その社会的自立に寄与していくことを生きざまとして地域に示していけると良いですね。

感情的にキレル子どもとことば音楽療法

NPO法人つばさの丘 桂川 一
(愛知県 春日井市)

感情コントロールの困難をもつ子がいる。普通校の支援級や普通級にいる一見発声や発語には問題がなく会話しているように見える子たち。しかし学習障害や不器用障害のため9の力で一生懸命やっても3~4の結果しか出ずいつも「もっとがんばりなさい!」とか、くたくたになりながらやって結果を出しても「ほらできるじゃない、その調子!」と言われ、「もう無理! どうせ俺なんて!」と言っている。勉強にキレ、先生にキレ、学校生活にキレ、キレキレになって放課後デイにきて爆発する「乱暴で問題行動の多い子」。しかし訳を聞くと困っている内容を言い表せない。私が言葉を列挙してみると「それ!」とホッとしたり、「そう言いたいんだ」と急に腑に落ちた顔をする。気持ちや動詞・形容詞の語彙の少なさ、関係性を整えて文章の組み立てる力の弱さがあらわになる。怒りや悔しさ、みじめさを言葉に変えてやるとすっと落ち着き、心の中を取りだして見せてくれたりする。

困り具合を言葉にすることを心理学では「感情のラベリング」という。人は得体のしれないネガティブな感情を言葉にして対象化することでストレスを乗り越えるが、感情の分化自体は暦年齢に達しているのに、文字が読めなかったり、話し言葉をその場で意味が取れない子は言葉が紡ぎだせないため処理不能な状況になり不適応行動を起こす。小学校に入ってから語彙の習得は文字からが多くなるため、周囲との格差は余計に大きくなる。

そんな子どもたちにことば音楽療法の教材は役立つ。例えば「多語文の歌」、「つながりことば歌」。これらの教材は模範的な文章だけでなく植木鉢を割って叱られたりハチに刺されたりなどハプニング的な絵もあり、子どもたちの興味をひく。「おもしろいつながり」「あるつながり」など哲学的な内容まであり深い。「そうか、そういうんだ」「そういう言葉があるのか」「面白い、使ってみよう」と知らず知らず覚える仕掛けがある。感情デコボコ君をセッションに招いて多語文の歌をやったことがあったが、ハプニング例文を面白がってくれた。セッションだけではなく日常生活にも織り込みながら語彙や言い方を覚えて、「キレて失敗、叱られ生活」から「うまく言えて成功循環」になっていけると良い。言葉を必要な時に振り出す「三枚のお札」として使えるように渡すこともことば音楽療法の使命だと思う。



Facebook



Twitter

どちらか
「一般社団法人 発達支援協会」と
検索してください!

「いいね!」の数が
多いほど、検索対象に
なりやすいようです!
ご協力よろしく
お願い致します!

言語理解がある高校生への発声トレーニング

小坂 満賀（神奈川県在住）

私は2016年にことば音楽療法の指導を始めました。元々は声楽（オペラや歌曲）の発声、つまりマイクを使わず遠くまで声を響かせる発声を指導するヴォイストレーナーです。この二つの仕事は目的が異なるように見えますが、実際には互いに作用しあっており、必要な要素の根本は同じであると言えます。

その「声楽の指導法」がダウン症の高校生への発語指導に役立った例をご紹介します。彼は言葉の理解はあるものの、滑舌の悪さ、文法の曖昧さ、吃音などの問題から会話がうまく成立しない状態でした。2年間程様々な練習をしましたが、発音に必要な口まわりの筋力不足のため、歌うだけではもはや不十分でした。そこで私が声楽指導で度々取り入れている「子音と母音を独立させる練習法」を活用しました。

声楽発声上は、子音と母音は分けて捉える必要があります。例えば「ナ」であれば、「N」と「A」に分解してそれぞれの正しいポジションを習得しなければなりません。彼の場合、まず「ん」の絵・文字カードを用い「N」の発音を強化しました。「N」が発音出来たあと、続けて「A」を発音することで「NA」つまり「な」と発音することが可能になりました。「N」以外は子音のカードがありませんので、講師の両手で生徒の手のひらを挟み、講師が上顎と下顎、生徒が舌の動きを手で模倣することで、舌の位置や筋肉の圧力を理解させました。それぞれの子音発声時の口の中の状態を正しく準備させることで、少しずつ問題はクリアできています。

20代の頃、私は海外で生活をし、言語習得の難しさを目の当たりにしました。講師となった今、生徒の気持ちや、置かれた状況が理解できるという点においては有意義な経験だったと言えます。人生に無駄はないものです。

指導には様々な試行錯誤がありますが、私が一番大切にしていることは「この人と話したい。」と思ってもらえる人間であるということです。日々の指導を通し、生徒と共に成長させていただいています。

2019年4月1日より、 一般社団法人発達支援協会の FacebookとTwitterを開設しました！

投稿内容は

- ことば音楽療法基礎セミナーのご案内／開催後のご報告
- 日本ことば療学会のご案内／開催後のご報告
- 会報誌の掲載
- 各認定教室の紹介(HPに載っている認定教室順に掲載予定)
- 堀田メソッドを各項目ごとにご紹介

…など、月に4回程度の投稿を予定しています！

認定教室の皆様には、順次掲載のご案内と必要事項の記入をお願いしたいと思っておりますのでご協力よろしくお願ひいたします。

ことば音楽療法を 放課後等デイサービスで 取り入れる意義とは

NPO法人とこっ子
療育担当者 浅野 雄太
(愛知県 常滑市)

NPO法人とこっ子 放課後等デイサービス野花で、ことば音楽療法を取り入れて、はや数年が経ちますが、その年月で私がこの音楽療法に対して、現場でどのような取り入れ方をしていくのかということに自問自答してきました。

音楽療法を学んだ最初の数年間は、現場で朝の会や帰りの会というみんなが集まるタイミングで、いろんなメニューに取り組んでいました。長らくその方法で行って

きた私は、ある時、本当に必要な子どもに提供できているのか？と疑問に思い、何のために音楽療法を取り入れるのかという所にまで考えが陥ってしまいました。野花では、一日に利用する子どもたちは、特別支援学校に通う子どもと地域の支援級に通う子どもの割合が半々であり、言葉は出るのが対人コミュニケーションが苦手という子どもたちが多く利用しています。集団で行うメリットももちろん理解はしていましたが、それよりもピアノが弾けるのが当時は私だけという理由も含め、活動として取り入れる難しさに悩み、見失いつつありました。

そこで、そういった考えを一度捨てて、子どもたちみんなが集まる前に野花に登所する利用者さんに焦点を当ててアプローチをかけようと考えを改めました。丁度それに該当する子どもたちが、野花で音楽療法を必要としている子どもたちでした。

そこからは仕組みを変え、毎週火曜・水曜・金曜にその子たち個々に向けたプログラムを提供するようにしました。

それからは再び軌道に乗り、今まであまり乗り気でなかったAくんは、15分間座って参加できたり、「あーあー」と発語を出したいというアピールまでしてきてくれるようになりました。Bくんは、「おんがく♪」と単語を発して求めてくれるようになり、普段は自分の欲求に一直線ですが、音楽の時間では、指導者の指示に忠実に行動に移すこともできました。そこで初めて私は、音楽療法でしかできないことに辿り着いたのです。

約6年間の音楽療法の活動を通して私が導きだした答えは、ただ子どもたちに音楽療法を提供するのではなく、その子が音楽をやりたい・言葉を出したい・覚えたいという欲求が重なり、初めて音楽療法が生きてくるのだと感じました。また、発語を促すことだけではなく、協調性・待つスキル・その通りに行動するスキルなど、様々な効果が得られると私自身学びました。そのため、子どもたちへの支援の選択肢の一つとなっています。また、職員と利用するお子さんとの信頼関係や、人間通しのフィーリングというのも大切な要素の一つであると思います。つまり、子どもの性格や特徴に合わせて音楽療法も工夫が必要であり、変化させていくことが、子どもの語彙力や社会スキルの成長に繋がっていくのであると感じています。継続は力なりという言葉の通り、すぐには結果が出ない物ではありますが、「大人力」で子どもの成長を見守り、数年後に「Aくんは〇〇ができるようになったね！」と笑って話せる、そのようなことを夢見ています。現在では、小集団で行う音楽療法も徐々に浸透してきており、子どもに合わせた変化に、職員一丸となって今も挑戦し続けています。

各法人・施設できっとそれぞれに適したやり方があると思いますので、もし悩んでいる方がいらっしやいましたら、ぜひ視点を変えて独自のやり方を編み出して、利用者さんの特徴を踏まえたアプローチ方法で継続していくと、利用者さんも支援をする立場の方もきっと有意義な音楽療法を見つけることができると思います。

コラム⑮

宍戸 理恵

数年のセッションを重ね、文字の理解、ことばのリズム感を身に付けた男児。近頃は音程によってワンフレーズをうたおうとするようになってきた。

『おおきな栗の木の下で』『きらきらぼし』『知育音楽うたあそび』の本から『うえにはそら』『からだのぼしょのうた』（お風呂で♪あーしのゆーび あしーくび～等うたっているそうである。）数曲の歌の出だしをうたい始めた。

もしやと思い、階名の文字の書いた紙鍵盤を与え、「どどそそららそ～」ときらきらぼしを階名で歌ってやり、文字を一本指で何回もたどらせてみた。ピアノのまえに立たせ、音の位置を教えながら「どどそそららそ～」と弾かせてみると、なんと続きも最後まで音楽を表現できたのだ。それまではピアノというと両手の平でバンバンと乱暴に叩いて音を出していただけであった。発語、文字、リズム感を根気よく身に付けさせるとこのようなことも出来るようになるのだ。その子にとっては驚きの行動であった。

『ねこふんじゃった』の「♪ねこふんじゃった」の部分を単音で左右の人差し指で教え、弾けるようになった時、その男児は、「ぴあのッ！！」「おんがく！！」「ぴあのッ！！」「おんがく！！」と何度も大きな声で叫んだ。

その子の「音楽」がそこにあった。

指先の不自由さを乗り越え、ピアノ演奏を良い音色で心を込めて演奏できるようになった特別支援学校に通う女兒にとっても音楽表現は人生に欠かせないものとなっている。

コンクールに挑戦する健常の生徒もレッスンに来られる大人の方も、私にも、それぞれその人の個人の音楽との関りがある。

音楽や子どもたちはいろいろなことを教えてくれる。そして音楽は太陽の光のように、誰にでも降り注ぎ、恩恵をもたらすものである。

宍戸理恵の著書

商品番号▶B111

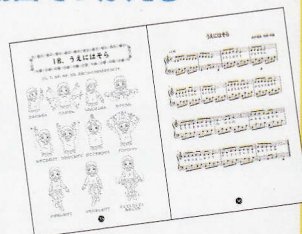
A4判/93ページ 発達支援協会 叢書9

～保育・療育・ことば・子育て支援など、いろいろな場面で行える～

♪知育音楽あそびうた

教育関係、子育て支援、保育、療育、音楽療法、学校など様々な場面でとり入れられる素材です。幼児から小学生低学年程度の幅のある年齢層につかえます。手あそび等の音楽あそびから簡単な学習的内容のうた、親子スキップ、ことばに関わる内容等が含まれています。

後半にはコラムが掲載されています。



価格：2,160円(税込)

著者：宍戸理恵 イラスト：TAKAKO



作：宍戸理恵 イラスト：TAKAKO

一般社団法人 発達支援協会 認定校・教室

認定校

■名古屋市

【発語音楽研究所】

療育責任者：堀田喜久男

■大阪府東大阪市

【深谷音楽教室】

主宰者：深谷靖子

発語音楽療法

検索

認定教室

ことば音楽療法の認定校・教室です。各教室か事務局にお問い合わせください。
認定校・認定教室を全国にて募集しております。

TEL & FAX : 052 (505) 5255 <事務局>

各教室へのご連絡はホームページ『ことば音楽療法』をご覧ください。

◆関東地区◆

- ⑨ 東京都江戸川区【ことば音楽療法 あ・い・う・え・お】 主宰者：嬉 利恵
- ⑰ 千葉県習志野市【千葉ことば音楽教室】 主宰者：小林紳一

◆東海地区◆

- ② 愛知県【SiSiDo Music room】 主宰者：穴戸理恵
- ④ 三重県【樋口音楽教室】 主宰者：樋口なおみ
- ⑩ 愛知県碧南市【ひだまり教室】 主宰者：小笠原清恵
- ⑬ 愛知県常滑市【長鎌音楽教室】 主宰者：長鎌明美
- ⑯ 岐阜県大垣市【music room SORA】 主宰者：兒玉貴栄

◆関西地区◆

- ① 大阪府【さゆり音学院】 主宰者：土田靖子
- ③ 京都府舞鶴市【でんでんむしの会】 主宰者：松浦光子
- ⑦ 京都府舞鶴市【さがん発語音楽教室】 主宰者：目美香
- ⑧ 大阪府枚方市【安宅ことば音楽療法教室】 主宰者：安宅千世子
- ⑫ 兵庫県芦屋市【きじ猫 音楽工房】 主宰者：上野奈央
- ⑭ 大阪市都島区【音楽セラピーみゅーじっくらんど】 主宰者：末吉裕美
- ⑮ 大阪市平野区【一般社団法人みらいぴっころ】 管理者：森嶋裕子
- ⑱ 兵庫県西宮市【みずしり音楽教室】 主宰者：水尻真美香
- ⑲ 京都市北区【御園橋ことば音楽教室】 主宰者：中島真治

◆九州地区◆

- ⑤ 福岡県行橋市【ことばの音楽教室】 主宰者：工藤知子
- ⑥ 福岡県遠賀郡【りずむの木】 主宰者：石井純子
- ⑪ 福岡県行橋市長木【ことばの♪パッソ♪教室】 主宰者：松尾範子 ※数字は認定順



御園橋ことば音楽教室（京都）

ことば音楽療法士 認定者 ▶195名（受講中も含め）令和元年5月現在

一般社団法人 発達支援協会 事務局

〒452-0821 名古屋市西区上小田井2-98 JHTA内 TEL & FAX : 052 (505) 5255

ことば音楽療法 日本ことば療法学会

検索